

事例番号:280019

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第六部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

2 回経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 36 週 3 日

12:30 陣痛発来、妊産婦より電話あり、「お腹よく張る、痛みは時々、胎動は朝から感じていない」

13:20 当該分娩機関受診、分娩室入室

#### 4) 分娩経過

妊娠 36 週 3 日

13:25 胎児心拍数聴取困難、70-80 拍/分の徐脈

13:39 超音波断層法で胎児心拍数 60 拍/分前後、後血腫(+)

胎盤早期剥離の診断

14:06 胎盤早期剥離のため帝王切開により児娩出

手術所見 へレリン(+)、子宮うっ血(+)、血清羊水、胎盤娩出後に子宮内に凝血塊を認めた。

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:36 週 3 日

(2) 出生時体重: 2730g

(3) 臍帯動脈血ガス分析値: pH 6.815、PCO<sub>2</sub> 77.7mmHg、PO<sub>2</sub> 25.2mmHg、

HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 6.9mmol/L、BE -19.9mmol/L

(4) Apgarスコア:生後1分2点、生後5分4点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バッグ・マスク)、気管挿管

(6) 診断等:

出生当日 重症新生児仮死、低酸素性虚血性脳症、播種性血管内凝固症候群  
の診断

(7) 頭部画像所見:

生後38日 頭部MRIで急性低酸素性虚血性脳症の所見(基底核壊死をとも  
なう嚢胞性脳軟化症)を認める

## 6) 診療体制等に関する情報

(1) 診療区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医2名、小児科医1名、麻酔科医2名

看護スタッフ:助産師1名、看護師2名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は常位胎盤早期剥離による重症の胎児低酸素・酸血症  
であると考えられる。

(2) 常位胎盤早期剥離の関連因子は特に認められない。

(3) 常位胎盤早期剥離の発症時期を特定することは困難であるが、妊産婦が胎  
動を感じなくなった朝頃からお腹の張りや痛みを感じるようになったとの  
電話をかけてきた12時30分までの間であった可能性が高い。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠36週0日までの妊婦健診は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠36週3日12時30分の妊産婦からの電話に対し、来院指示をしたこと  
は一般的である。

(2) 13時20分に妊産婦が来院後の看護スタッフの対応(看護師がノンストレスを開始  
しようとするが胎児心拍数聴取困難のため、助産師とともに胎児心拍数を

聴取、陣痛室に超音波断層装置の準備、医師への報告)、医師の対応(胎児心拍数確認後の応援要請、母体への酸素投与開始、超音波断層法開始後9分に常位胎盤早期剥離の診断、血管確保、小児科医師への連絡をしたこと)は、適確である。

- (3) 13時44分に分娩監視装置装着、家族への連絡の後、高次医療機関への搬送依頼を行うも不可の状況で、自院の麻酔科医師、外科医師の存在を確認し、自院での帝王切開を決定したことは医学的妥当性がある。
- (4) 常位胎盤早期剥離の診断から27分で児を娩出したことは、適確である。
- (5) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

### 3) 新生児経過

新生児蘇生は一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

重症の新生児仮死が認められた場合には、胎盤病理組織学検査を実施することが望まれる。

【解説】胎盤の病理組織学検査は、脳性麻痺発症の原因の解明に寄与する可能性がある。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

重度の新生児仮死で出生した場合や重篤な結果がもたらされた場合には、院内でカンファレンスや原因分析委員会などの事例検討を行うことが望まれる。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

常位胎盤早期剥離の発生機序の解明、および予防法や診断法に関する研究を推進すること望まれる。また常位胎盤早期剥離について、児が救命困難であったり、救命されても脳性麻痺になる危険性があるという現状を広く国民に知らせ、その可能性が疑われた場合には早急に受診するよう、さらに啓発することが望まれる。

#### (2) 国・地方自治体に対して

なし。